

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人良創夢 らそうむ発達支援ルームらいく嘉麻店			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 3日		～	令和7年 3月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語聴覚士、作業療法士、保育士といった専門性のあるスタッフが在籍していることで、ニーズを踏まえた支援を提供することが出来ている。	・担当制ではなく、すべてのスタッフが交代でセッションを担当することで、専門性のあるスタッフがそれぞれの視点からお子さんの姿や状況を捉えることができ、支援に活かすことができている。	・今後、ニーズのある方の利用につながっていくよう、当事業所の強みをアピールしながら各関係機関との連携を深めていく。
2	・個別療育という形態をとっているため、一人一人のお子さんに寄り添った個別のプログラムを提供することでじっくりと向き合うことが出来ている。	・お子さんの興味や関心のあるものを取り入れたり、その時々で課題となっていることをらいくでも練習できるようプログラムに組み込むことが出来ている。また、その日のコンディションによって負荷量を調整したり活動内容を変更するなど、柔軟に対応することができている。	・お子さんに対する支援を充実させていけるよう、お子さんや保護者の方と積極的にコミュニケーションを取っていくことで、その時々状況やニーズなどの情報収集を行っていく。
3	・お子さんが利用を毎回楽しみにしているというお声をいただくことが多い。	・お子さんの「楽しい」という気持ちを大切にしており、「楽しさ」をベースとして自己肯定感や意欲、自主性の向上につなげていけるようセッション内容を工夫しています。	・今後も利用を楽しみにしていただけるように、お子さんや保護者に寄り添って支援を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種計画、マニュアル等の策定はしているが、保護者の方へ周知が不十分のため、どなたでも閲覧できる環境を整備する必要がある。	・待合室の掲示スペースに限りがある。また、書類を多く張り出すことがお子さんの過ごす環境としてあまりふさわしくないのではないかと考えられ、実施に至っていなかった。	・書類を冊子状にまとめ、分かりやすい見出しをつけて待合室の本棚に並べるなど、スペースを使わずに公表する方法を検討し、実施していく。
2	・個別療育という性質上、すべての利用者の利用時間に避難訓練を行うことが難しく、避難訓練を経験していない利用者もいるため、避難の動線等を周知することができていない。	・避難計画等、非常時の対応について利用者に対する周知ができていなかった。	・避難訓練に参加できていない利用者に関しても避難時の対応や動線など周知できるよう、避難計画の公表を行う。
3	・現在送迎業務を行っておらず、基本的に保護者の方と一緒に来訪してもらう形態を取っているが、お仕事の都合などで送迎が困難なため利用につながらないケースも出てきている。	・各1時間の個別療育という性質上、送迎業務を行う人員や車両を確保することが難しく、体制を整えることができていなかった。	・車両の確保や人員配置などを検討し、可能な時間帯から送迎業務に対応することができるよう体制を整え、ニーズがありながら送迎が難しいという利用者に関しても利用につなげていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					年 月 日	
NPO法人良創夢 らそうむ発達支援ルームらいく嘉麻店		利用児童数					21	回収数 16
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16					・限られたスペースではありますが、怪我にに備えて緩衝材を設置するなど、十分な活動ができるよう工夫しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16					・ブレイルールのセッションは基本的にスタッフ2名が付き、個室セッションでは1対1で対応させていただいています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			2		・お子さんへの情報伝達には必要に応じて視覚支援を取り入れています。また、当事業所はバリアフリー対応しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16					・毎日清掃や消毒を行い、安心してご利用いただけるよう心がけています。また、季節の装飾などで楽しい環境づくりをしています。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16					・言語聴覚士、作業療法士、保育士がお子さんの特性やニーズに合わせた専門的な支援を行えるよう心がけています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					・支援プログラムに関しては、当事業所の支援内容に基づいて作成し、ホームページ上に公表しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16					・お子さんの状況や課題、ニーズなどを言語聴覚士、作業療法士、保育士が多面的に分析し、個別支援計画に反映させています。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15			1		・児童発達支援ガイドラインに沿い、お子さん本人への支援、ご家族への支援、ライフステージの移行を見据えた支援の項目に応じて具体的な支援内容をお伝えすることができるよう個別支援計画書を作成しています。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					・個別支援計画を元に立案を行い、打ち合わせを通してスタッフが活動の目的等を共有しあいながら支援を行なっています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16					・毎回の立案の際には前回までの記録を参照し、活動内容が固定化したり偏ることがないように配慮しています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	1	1	3		・個別療育という支援の特性上、また、限られた時間の中での支援の提供となるため、外部のお子さんとの交流は行っていません。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					・初回利用の契約の際に、契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行なっています。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16					・個別支援計画書をお示ししながら支援内容の説明を行い、提供する支援に対して納得やご理解いただけるよう心がけています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1		4		・プログラムの実施はありませんが、相談支援等の実施や、活動の見学を通して対応を参考にさせていただけるよう心がけています。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16					・園やご家庭での生活の状況や課題、困りごとに加え、小さなことでも情報共有、共通理解ができるよう心がけています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15			1		・セッションの前後やセッション中にお話をさせていただいています。困りごと等はいつでもご相談いただけたらと考えます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16					・お子さんや保護者の方の気持ちに寄り添った支援が提供できるよう、日々のコミュニケーションや情報共有を心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	1	1	9		・現在、保護者同士の連携に関するご要望がないため、父母の会やきょうだい児への支援等は実施していません。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15			1		・苦情等の対応に関しては担当者を配置し、待合室に掲示を行うことで周知し、適切な対応・解決に向けた体制を整えています。気になったこと等は些細なことでもお知らせ頂けたら幸いです。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15			1		・保護者の方へは、直接お伝えする、お電話に加え、LINEでも情報伝達ができるよう工夫しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	1		7		・個別療育のため通信等の発行は行なっていませんが、自己評価等の結果に関しては、ホームページ上に掲載し公表しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15			1		・個人情報の取扱いに関しては、細心の注意を払っており、第三者に情報が伝わることはないよう心がけています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9		1	6		・各種マニュアルの策定、訓練等の実施をしていますが、周知の面では不十分なため、どなたでも閲覧できるよう対応を検討します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		10		・個別療育の特性上、全利用者に毎回避難訓練を実施することが難しいですが、避難訓練は定期的に実施し、緊急時に備えています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16					・計画については策定していますが、周知の面では不十分なため、どなたでも閲覧できるよう対応を検討します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12			4		・事故発生の際には、マニュアルに沿って迅速かつ適切な対応が行なえるよう体制を整えています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	16					・お子さんにとっていろいろが安心できる場所、リフレッシュできる場所と感じてもらえるような関係性作りを心がけていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16					・療育を提供する中で、「楽しさ」を通して自己肯定感や意欲、自主性などを高め、発達を促してけるよう今後も心がけていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16					・今後も、お子さんの『like（好き）』『良育（良い育ち）』『良生（良く生きる）』を支える場所であれるよう努めて参ります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		NPO法人良創夢 らそうむ発達支援ルームらいく嘉麻店				公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		怪我の危険性が考えられる場所には、緩衝材を設置するなどして安全性を確保している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・運動セッションでは利用児一人に対してスタッフ二人、個室セッションでは一対一で人員を配置している。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		利用時に対しては視覚支援を取り入れ、視覚的に分かりやすい環境づくりをしている。建物はバリアフリー対応している。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日清掃や消毒を行い、安心してご利用いただけるよう心がけている。また、季節の装飾などで楽しい環境づくりをしている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・個別療育のため、プレイルーム、個室ともに利用のお子さんのみが個別で利用する形態となっている。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・日々の取り組みに加え、年に2回、全スタッフが業務の振り返りと評価、目標設定を行うことで業務改善に努めている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・保護者による事業所の評価（アンケート）を毎年行っており、ご意見やご要望などを共有し、業務改善につなげている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・職員が面談する機会を設けており、業務に対する意見などを把握し業務改善につなげている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	・第三者評価は現在行っていない。	・今後、第三者評価の必要性について検討していき、必要に応じて実施していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	・各職員に対し必要な研修への参加の機会を設けているが、人員不足等により研修への参加の機会が減っている。	・職員の資質向上のために十分な研修機会の確保を検討していく。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・実際の支援内容を基に支援プログラムの作成を行い、ホームページ上にて公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・聞き取りをメインにアセスメントを行い、ニーズが個別支援計画に反映されるようにしている。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・児発管だけでなく、各専門スタッフが各自の視点からお子さんを捉え、計画内容に反映されるようにしている。				

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・職員間で個別支援計画書の内容を共有し、計画に沿って支援を行うよう心がけている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・標準化されたツールは現在用いておらず、インフォーマルなアセスメントにて行っている。	・今後、アセスメントツールの利用なども視野に入れ、より適切にアセスメントを実施していけるよう努めていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・ガイドラインを基に、必要な項目に沿って支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	・プログラムの立案は個人で行っているが、担当制ではなく都度違うスタッフが立案するため、スタッフ全員で行っていると言える。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・担当制ではなく、都度違うスタッフが立案することでプログラムが固定化されないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		6	・個別療育のため、集団活動は行っていない。対スタッフのルール遊びやスポーツ活動等を通して、集団生活の活動を行っている。	・小集団などの実施は今のところ予定していないが、対スタッフとの間でスモールステップで集団活動の練習を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・活動前の打ち合わせを必ず行い、セッションの目的や役割分担を確認して支援を行うようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・カルテにて情報共有を行っている。また、空き時間に振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・毎回の支援内容は確実に記録を残し、スタッフ間で情報共有するとともに、前回の内容を次の立案に活かすようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・定期的なモニタリングを行い、個別支援計画の内容を見直している。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・固定のスタッフではなく、それぞれの専門性や、お子さんのニーズや状況に応じて適切なスタッフが参加するよう心掛けている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・必要に応じ、保健師や主治医、保育園や学校と連携しながら支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・当事業所は個別療育だが、集団への移行を見据えた支援を行っており、移行の際には情報共有を行い相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・要望に応じて会議への参加や情報提供書の作成を行い、相互理解を図っている。	

関係機関や保護者との連携	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		6	・現在、児童発達支援センターとの連携は行っておらず、スーパーバイズ等も受けていない。	・今後、連携の必要性について検討を行い、支援の質の向上を図っていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	・個別療育という形態から、地域の他の子どもと交流する機会は設けていない。現段階で利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・活動内容のフィードバック時を中心にやっている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	・ペアレントトレーニングは行っていないが、相談援助や研修会に関する情報提供等は行っている。	・現在ペアレントトレーニング等を実施できるスタッフがいない為、今後必要性について検討を行う。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・初回利用の際に説明を行っている。また、細かい支援プログラム内容に関しては毎回セッション後に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・日頃からお子さんや保護者のニーズや意向を確認するよう心掛け、計画書に反映されるよう努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・計画が切り替わる際には毎回、個別支援計画書をお示ししながら説明を行い同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・育児に関する相談援助を行っている。また、セッション見学を通して声かけや接し方をお伝えできるよう掛けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	・現在父母の会等の活動は実施していない。また、利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・初回契約時に説明を行うとともに、待合室に苦情解決に関する掲示を行い周知している。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・定期的な通信の発行は実施していないが、情報発信に関しては、SNSやホームページを中心にやっている。	・より多くの保護者の方に必要な発信できるよう、方法などを検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意を払うよう心掛けている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・LINEでの連絡が可能であるため、保護者とスタッフの間で前もって情報共有したい際などに役立っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	・個別療育という形態から、地域の方と交流する機会は設けていない。また、利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	・各種マニュアルの策定、訓練の実施は行っているが、家族への周知に不十分さがある。	・保護者への周知を行っていきけるよう、方法を検討ししっかりと対応していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・計画を策定するとともに、必要な訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・児童票にご記入いただき、確認している。また、必要に応じてその都度状況を確認しながらセッションを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	・食事提供は行っていないが、アレルギー等の情報に関してはなるべく把握するようにしている。	・今後も等事業所で食事やおやつ等を提供する予定はないが、確認し把握するよう心掛けていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・安全計画の作成、訓練などを実施し、安全管理を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4	・安全計画の作成等の取り組みは行っているが、保護者への周知が不十分となっている。	・保護者への周知を行っていきけるよう、方法を検討ししっかりと対応していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットが発生した際は記録に残し周知を行うとともに、対策を講じることで再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・虐待防止に関する研修に参加し、研修内容の共有を行うことで人権意識の向上に努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		・契約時に説明を行っている。現在、肢体不自由の利用者がいないため、基本的に身体拘束を行うことはない。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人良創夢 らそうむ発達支援ルームらいく嘉麻店		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 3日 ～ 令和7年 3月 4日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・言語聴覚士、作業療法士、保育士といった専門性のあるスタッフが在籍していることで、ニーズを踏まえた支援を提供することが出来ている。	・担当制ではなく、すべてのスタッフが交代でセッションを担当することで、専門性のあるスタッフがそれぞれの視点からお子さんの姿や状況を捉えることができ、支援に活かすことができている。	・今後、ニーズのある方の利用につながっていくよう、当事業所の強みをアピールしながら各関係機関との連携を深めていく。
2	・個別療育という形態をとっているため、一人一人のお子さんに寄り添った個別のプログラムを提供することでじっくりと向き合うことが出来ている。また、学習面でのつまづきなど苦手分野を復習したり理解を深めることで、学習面の支援をすることができている。	・お子さんの興味や関心のあるものを取り入れたり、その時々で課題となっていることをらいくでも練習できるようプログラムに組み込むことが出来ている。また、その日のコンディションによって負荷量を調整したり活動内容を変更するなど、柔軟に対応することができている。	・お子さんに対する支援を充実させていけるよう、お子さんや保護者の方と積極的にコミュニケーションを取っていくことで、その時々状況やニーズなどの情報収集を行っていく。
3	・提供している支援に対してご理解やご満足をいただけている。また、お子さんにとって安心できる場所や楽しい場所とお声をいただけている。	・その日の支援内容についての説明や、活動中のお子さんの様子などを保護者に対してフィードバックし、どのような目的で活動を行ったかなどご理解を得られるよう心がけている。また、お子さんの「楽しい」という気持ちを大切にしており、「楽しさ」を通して自己肯定感や意欲、自主性につなげていけるよう努めている。	・今後も継続してご利用していただく中で、お子さんにとって楽しい場所や安心できる場所であれるよう、お子さんや保護者に寄り添って支援を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種計画、マニュアル等の策定はしているが、保護者の方へ周知が不十分なため、どなたでも閲覧できる環境を整備する必要がある。	・待合室の掲示スペースに限りがある。また、書類を多く張り出すことがお子さんの過ごす環境としてあまりふさわしくないのではないかと考えられ、実施に至っていなかった。	・書類を冊子状にまとめ、分かりやすい見出しをつけて本棚に並べるなどしてスペースを使わずに公表する方法を検討し、実施していく。
2	・個別療育という性質上、すべての利用者の利用時間に避難訓練を行うことが難しく、避難訓練を経験していない利用者もいるため、避難の動線等を周知することができていない。	・避難計画等、非常時の対応について利用者に対する周知ができていなかった。	・避難訓練に参加できていない利用者に関しても避難時の対応や動線など周知できるよう、避難計画の公表を行う。
3	・個人情報保護の面で、セッションのフィードバックで保護者の方にお話しをする際に、他の利用者に話の内容が聞こえているのでは、というご意見をいただいた。	・フィードバックを行うタイミングがセッション終了後であることから、部屋の入れ替えのタイミングとなっており、お話を場所が確保できず待合室などの他者のいる環境となってしまう。	・フィードバックのタイミングをずらすなどして、他者のいない環境を確保してお話をしていくことで、安心していただけるよう配慮を行っていく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	NPO法人良創夢 らそうむ発支援ルームらいく嘉麻店
------	---------------------------

公表日 年月日

利用児童 60（兄弟児を含むため、保護者45
数 名）

回収数 30

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30				・広々としていいと思う。	・限られたスペースではありますが、怪我に備えて緩衝材を設置するなど、十分な活動ができるよう工夫しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	30					・プレイルームのセッションは基本的にスタッフ2名が付き、個室セッションでは1対1で対応させていただいています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	30					・お子さんへの情報伝達には必要に応じて視覚支援を取り入れています。また、当事業所はバリアフリー対応しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30					・毎日清掃や消毒を行い、安心してご利用いただけるよう心がけています。また、季節の装飾などで楽しい環境づくりをしています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30				・個々の支援について、とてもよく感じている。	・言語聴覚士、作業療法士、保育士がお子さんの特性やニーズに合わせた専門的な支援を行えるよう心がけています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28			2		・支援プログラムに関しては、当事業所の支援内容に基づいて作成し、ホームページ上に公表しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30				・子どもの状況や親のニーズに沿って作成してくれている。	・お子さんの状況や課題、ニーズなどを言語聴覚士、作業療法士、保育士が多面的に分析し、個別支援計画に反映させています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29			1		・ガイドラインに沿い、お子さん本人への支援、ご家族への支援、ライフステージの移行を見据えた支援の項目に応じて具体的な支援内容をお伝えすることができるよう個別支援計画書を作成しています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30					・個別支援計画を元に立案を行い、打ち合わせを通してスタッフが活動の目的等を共有しあいながら支援を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30				・楽しめるように都度工夫してくれている。 ・長く通っているが、飽きないように工夫されていて楽しんで学べており感謝している。	・毎回の立案の際には前回までの記録を参照し、活動内容が固定化したり偏ることがないように配慮しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2	9	13	・参加していない。 ・未経験。 ・そのような機会があるかわからない。 ・希望していないため、なくてもよい。	・個別療育という支援の特性上、また、限られた時間の中での支援の提供となるため、外部のお子さんとの交流は行っていません。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30					・初回利用の契約の際に、契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行っています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29			1	・一つ一つ説明してくれている。	・個別支援計画書をお示ししながら支援内容の説明を行い、提供する支援に対して納得やご理解いただけるよう心がけています。

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	3	1	15	・そのような機会があるか分らない。 ・研修会は分らないが、相談しやすく助かっている。 ・未経験。	・プログラムの実施はありませんが、相談支援等の実施や、活動の見学を通して対応を参考にいただけるよう心がけています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	29	1			・状況をいつも丁寧に伝えてくれる。 ・LINEを使って事前に伝えている。	・学校やご家庭での生活の状況や課題、困りごとに加え、小さなことでも情報共有、共通理解ができるよう心がけています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	2		1	・助言に助かっている。	・セッションの前後やセッション中にお話をさせていただいています。困りごと等はいつでもご相談いただけたらと考えます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30				・成長を共感できる ・寄り添った支援をしてもらっていると感じる。	・お子さんと保護者の方の気持ちに寄り添った支援が提供できるよう、日々のコミュニケーションや情報共有を心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	2	3	19	・参加していない。 ・未経験。 ・そのような機会があるかわからない。 ・希望していないため、なくてもよい。	・現在、保護者同士の連携に関するご要望がないため、父母の会やきょうだい児への支援等は実施していません。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	1	1	1		・苦情等の対応に関しては担当者を配置し、待合室に掲示を行うことで周知し、適切な対応・解決に向けた体制を整えています。気になったこと等は些細なことでもお知らせ頂けたら幸いです。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28				・1コマごとに活動の意図を説明があり助かる。そのタイミングで相談もしやすい。 ・場所がオープンなので、利用後帰宅準備中の話し声が大きく、学習の音が聞こえない。	・話し声などがセッションに影響することがないよう、今後はスタッフが気を配り、対応していきたいと考えます。大変申し訳ございません。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	2	1	10	・インスタを見ている。 ・電話ができないときにLINEがあるので助かる。	・個別療育のため通信等の発行は行なっていませんが、自己評価等の結果に関しては、ホームページ上に掲載し公表しています。
非常時等の対応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	3			・利用後、保護者への話が他の利用者にも聞こえるし、聞かれている。	・配慮が足りず申し訳ございません。今後はお話しさせていただく際も個人情報を守られるよう、その場の状況に応じて対応させていただきます。
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	3	1	11	・未経験。 ・訓練は分らない。 ・避難の動線など分かっている。	・各種マニュアルの策定、訓練等の実施をしています。周知の面では不十分なため、どなたでも閲覧できるよう対応を検討します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	3	1	19	・未経験。 ・訓練はわからない。	・個別療育の特性上、全利用者に毎回避難訓練を実施することが難しいですが、避難訓練は定期的に実施し、緊急時に備えています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25			3	・角などにクッション材等されており気を付けていると思う。	・計画については策定していますが、周知の面では不十分なため、どなたでも閲覧できるよう対応を検討します。
満足度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状態等について説明がされていると思いますか。	21	1	1	5	・事故等の経験がない。 ・怪我、事故等が起きていないため分からない。	・事故発生の際には、マニュアルに沿って迅速かつ適切な対応が行なえるよう体制を整えています。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	28				・安心する場所。 ・子どもの精神安定の場になっている。	・お子さんにとってらくが安心できる場所、リフレッシュできる場所と感じてもらえるような関係性作りを心がけていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28	1			・楽しく利用している。 ・とても楽しみにしている。 ・毎回、前日から楽しみにしている。	・療育を提供する中で、「楽しさ」を通して自己肯定感や意欲、自主性などを高め、発達を促してけるよう今後も心がけていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28				・満足。いつも感謝している。 ・大変満足している。	・今後も、お子さんの『like（好き）』『良育（良い育ち）』『良生（良く生きる）』を支える場所であれるよう努めて参ります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		NPO法人良創夢 らそうむ発達支援ルームらいく嘉麻店				
		公表日				
		年 月 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・ブレイルームは年齢が上がるにつれて、やや手狭に感じる場面があるが、緩衝材を設置するなどして安全性を確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		・運動セッションでは利用児一人に対してスタッフ二人、個室セッションでは一対一で人員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		利用時に対しては視覚支援を取り入れ、視覚的に分かりやすい環境づくりをしている。建物はバリアフリー対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日清掃や消毒を行い、安心してご利用いただけるよう心がけている。また、季節の装飾などで楽しい環境づくりをしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・個別療育のため、ブレイルーム、個室ともに利用のお子さんのみが個別で利用する形態となっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・日々の取り組みに加え、年に2回、全スタッフが業務の振り返りと評価、目標設定を行うことで業務改善に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・保護者による事業所の評価（アンケート）を毎年行っており、ご意見やご要望などを共有し、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・職員が面談する機会を設けており、業務に対する意見などを把握し業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	・第三者評価は現在行っていない。	・今後、第三者評価の必要性について検討していき、必要に応じて実施していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	・各職員に対し必要な研修への参加の機会を設けているが、人員不足等により研修への参加の機会が減っている。	・職員の資質向上のために十分な研修機会の確保を検討していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・実際の支援内容を基に支援プログラムの作成を行い、ホームページ上にて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・十分な聞き取りを通してアセスメントを行い、ニーズが個別支援計画に反映されるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・児発管だけでなく、各専門スタッフが各自の視点からお子さんを捉え、計画内容に反映されるようにしている。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・職員間で個別支援計画書の内容を共有し、計画に沿って支援を行うよう心がけている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・標準化されたツールは現在用いておらず、インフォーマルなアセスメントに行っている。	・今後、アセスメントツールの利用なども視野に入れ、より適切にアセスメントを実施していけるよう努めていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・ガイドラインを基に、必要な項目に沿って支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	・プログラムの立案は個人で行っているが、担当制ではなく都度違うスタッフが立案するため、スタッフ全員で行っていると言える。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・担当制ではなく、都度違うスタッフが立案することでプログラムが固定化されないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	・個別療育のため、集団活動は行っていない。対スタッフのルール遊びやスポーツ活動等を通して、集団生活の活動を行っている。	・小集団などの実施は今のところ予定していないが、対スタッフとの間でスモールステップで集団活動の練習を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・活動前の打ち合わせを必ず行い、セッションの目的や役割分担を確認して支援を行うようにしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・カルテにて情報共有を行っている。 ・空き時間に振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・毎回の支援内容に関して確実に記録を残し、スタッフ間で情報共有するとともに、前回の内容を次回の立案に活かすようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・定期的なモニタリングを行い、個別支援計画の内容を見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		・放課後等デイサービスガイドラインに沿って支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・活動の中で選択肢を提示して選択を促したり、自分の意思を伝える場面を設けることで自己決定の支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・固定のスタッフではなく、それぞれの専門性や、お子さんのニーズや状況に応じて適切なスタッフが参加するよう心掛けている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・必要に応じ、保健師や主治医、保育園や学校と連携しながら支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	・学校への送迎業務は行っていないため、日常的な連絡調整の必要はないが、必要に応じて情報共有を行っている。	・学校見学や会議等への参加、電話による連絡などを通して情報共有を行っており、今後も継続して行っていく。

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・担当者会議、支援会議等に参加することで情報共有を行い、支援に活かすようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	・対象者がいないため現在行っていないが、情報提供書の作成などを必要に応じて行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6	・現在、児童発達支援センターとの連携は行っておらず、スーパーバイズ等も受けていない。	・今後、連携の必要性について検討を行い、支援の質の向上を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6	・個別療育という形態から、地域の他の子どもと交流する機会は設けていない。現段階で利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		6	・現在、事業所内で解決困難なケースがないため、自立支援協議会への参加は行っていない。	・事業所内で解決困難なケースが発生した場合には参加を検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・活動内容のフィードバック時を中心に行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	・ペアレントトレーニングは行っていないが、相談援助や研修会に関する情報提供等は行っている。	・現在ペアレントトレーニング等を実施できるスタッフがいない為、今後必要性について検討を行う。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	・初回利用の際に説明を行っている。また、細かい支援プログラム内容に関しては毎回セッション後に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・日頃からお子さんや保護者のニーズや意向を確認するよう心掛け、計画書に反映されるよう努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・計画が切り替わる際には毎回、個別支援計画書をお示ししながら設営を行い同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・育児に関する相談援助を行っている。また、セッション見学を通して声かけや接し方をお伝えできるよう掛けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6	・現在父母の会等の活動は実施していない。また、利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・初回契約時に説明を行うとともに、待合室に苦情解決に関する掲示を行い周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・定期的な通信の発行は実施していないが、情報発信に関しては、SNSやホームページを中心に行っている。	・より多くの保護者の方に必要な発信できるよう、方法などを検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意を払うよう心掛けている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・LINEでの連絡が可能であるため、お子さんに知られずに保護者とスタッフで情報共有したい際などに役立っている。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	・個別療育という形態から、地域の方と交流する機会は設けていない。また、利用者から希望する声は聞かれていない。	・利用者から交流等を希望する声が聞かれた場合には、実施を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	・各種マニュアルの策定、訓練の実施は行っているが、家族への周知に不十分さがある。	・保護者への周知を行っていきけるよう、方法を検討ししっかりと対応していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・計画を策定するとともに、必要な訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・児童票にご記入いただき、確認している。また、必要に応じてその都度状況を確認しながらセッションを行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	・食事提供は行っていないが、アレルギー等の情報に関してはなるべく把握するようにしている。	・今後も等事業所で食事やおやつ等を提供する予定はないが、確認し把握するよう心掛けていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・安全計画の作成、訓練などを実施し、安全管理を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	・安全計画の作成等の取り組みは行っているが、保護者への周知が不十分となっている。	・保護者への周知を行っていきけるよう、方法を検討ししっかりと対応していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットが発生した際は記録に残し周知を行うとともに、対策を講じることで再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・虐待防止に関する研修に参加し、研修内容の共有を行うことで人権意識の向上に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・契約時に説明を行っている。現在、肢体不自由の利用者がいないため、基本的に身体拘束を行うことはない。	